誰もが働きやすい職場を目指して

大和電設工業株式会社
社会インフラ事業部　インフラ営業部
尾形 真由子さん

1. はじめに

2021年４月に大和電設工業株式会社に入社し、今年で３年目となります。まだまだ若輩者ではありますが、この先10年20年と社会のインフラを支えていけたらと思います。

大学ではまちづくりを専攻し、学びのなかで、この街や国、ひいては世界を円滑に動かすためになくてはならない「インフラ」という分野に興味を持ち、就職活動ではインフラ事業に携わる会社を探していたところ、大和電設工業㈱を見つけました。

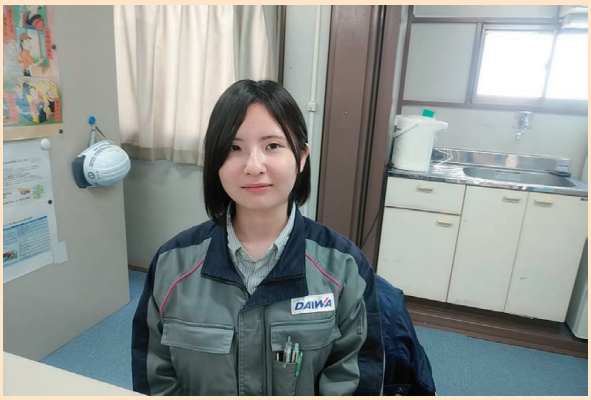
宮城県に所在し、東北を中心に通信インフラや土木インフラといった事業を展開しつつ、地域の活性化にも力を入れており、2011年の東日本大震災でインフラ被害を経験していた私にとって、心惹かれるものがありました。

知識も何もない状態でしたが入社を決め、現在は主に電気分野を担当しています。

2. 現場研修

入社後、２週間ほど本社で全体研修を受けたのち、東京へ赴き親会社であるエクシオグループ株式会社（当時・株式会社協和エクシオ）の新入社員研修に参加させていただきました。

その内容は、約半年間現行の複合高層ビル建設工事の電気設備工事にOJTという形で働くことでした。電気設備の知識も工事現場の知識もないに等しい状態のまま、入社１カ月もしないうちに現場へ送り出され、最初はわからないことだらけでした。果たしてここでやっていけるのだろうか？と不安な感情に襲われたことを覚えています。



尾形 真由子さん

しかし、これこそが新社会人の当たり前なのだと自身を鼓舞し、例えどんな環境であろうともこのOJTをやり遂げてみせる！と、それまで見せたことないほどのやる気を出しました。幸いなことに大きな現場であり従事する人も多いためか、女性の方が数人いらっしゃったので、性差によるアウェー感を感じることはありませんでした。このことがOJTをやり遂げることができた最大の要因の１つかと思います。

また、その現場では毎週決められた曜日に一斉清掃があり、普段から事務所や現場内が清潔に保たれていました。世間でよく言われている「建設現場の3Ｋ」の１つである「汚い」の印象は払拭され、そういった点での働きづらさは微塵も感じませんでした。

広い現場内を歩き回ったり、炎天下で何時間も外で作業をしたりなど、体力がない私にとって正直きつい日もありました。しかし、現場の方々の丁寧なご指導や仕事の環境もかなり良好だったこともあり、半年駆け抜ける

ことができました。そこで培った知識や経験は忘れることはないと断言できるほど貴重な経験をさせていただき、先方の方々には感謝しかありません。

3. 現場仕事を知る

約半年の研修を終え、本社に戻りさまざまな現場を視察しました。OJT先の建設工事とは異なる太陽光発電所構築やケーブルテレビFTTH化の現場、さらに担当外の土木現場まで視察し、仕事内容はもちろん、職場環境なども知ることができました。

大和電設工業が携わる工事はほぼ男性であり、女性の活躍する姿はまったく見ることができませんでした。それもそのはずで、私が当時配属されたインフラビジネス事業推進部には女性はほとんどおらず、電気・土木・通信といった工事主体の分野には１人もいませんでした。私はインフラビジネス事業推進部営業部の一員として、研修の時とは違う仕事内容に翻弄されながら、日々を過ごしていました。

仕事にやっと慣れてきたころ、社内の組織改編により、所属部署が社会インフラ事業部に変更になりました。営業部のまま、仕事の内容も変わらないと思っていた矢先、新たに始まる工事現場で働くお話をいただきました。

「営業として働くには、現場のことを理解していないと、わからないことがたくさんある。若いうちに現場に出て経験を積もう。加えて、女性活躍の一環として、現場を女性目線で変えていこう」このようなアドバイスを上司からいただき、確かにこの先のことを考えると現場に出た方がいいなと納得し、チャレンジしてみることにしました。OJTでは工期途中から参加し、竣工まで携わることができなかったので、最初から最後まで現場に常駐できることにある種ワクワクしました。

そんな中、女性活躍推進活動の一環でエクシオグループが取り組んでいるバイオマスガス化発電の工事現場に安全パトロールとして参加する機会に恵まれました。設備や工事内容について学ぶことはもちろんですが、それと同時に女性目線で現場の安全衛生面等での点検を行い、作業環境の改善を図る狙いもありました。その現場には女性がいなかったため、男性しかいない職場で女性が働きやすくなるには？といったことを深く考える機会となりました。

そこで私が感じたのは、トイレや更衣室など生まれつきの性差を考慮しなければならないという点はもちろんそうですが、それ以外の所謂女性〝らしさ〟や女性〝目線〟というものはそれほど重要視しなくて良いのではないか？ということでした。パトロール後の報告会で「足元が危険な箇所があった」「事務所に空気清浄機を置いてはどうか」等の意見が出ましたが、これらは女性目線ではなく男性から出ても不思議ではない意見のはず。そんな疑問を持ちながら、現場常駐への準備を始めました。

バイオマスガス化発電・安全パトロール

4. 現場仕事につく

2022年９月、中学校の電気設備改修工事の現場常駐が始まりました。OJT期間中の現場は新築でしたので、既存設備の現場は仕事内容も違うことが多く、学びは日々あります。

私は主に各種書類の作成・管理や工事写真・材料写真の作成・管理をしています。また、新たなチャレンジとしてCADによる図面作成も行っています。

この現場では現在、女性は私１人だけ。それでも女性だからという理由で働きづらいことはありません。それは周囲の方のご配慮が大きいのはもちろんですが、働きやすい環境を自分で作っていくようにしているからだと思います。

働きやすい環境づくりとは、事務所内は定期的に掃除をし、書類等の整理整頓も欠かさず行い、他業者さんや職人さんとすれ違う時は挨拶をして良好な関係を築くなど、誰でも「当たり前では？」と思うようなことをやっているだけです。

工程打合せ

KYミーティング

OJTで感じた「汚さを感じない」環境下を思い出し、常にきれいな事務所を心掛けるだけで、仕事１つひとつがやりやすくなりました。また、男性の中には女性というだけで変に気を遣って一種の壁を作ってしまう人もいると思います。そのため、自分から積極的に挨拶したり声をかけることで、その壁をなくすことができたらという思いがあります。

この現場では女性用快適トイレや更衣室の設置など生まれつきの性差による配慮を十分に行っています。そしてその上で自分が働きやすい環境を整える。その中で女性がどうだ、男性がどうだという考えを強く持った覚えはありませんでした。安全パトロールの時に生じた「女性〝らしさ〟や女性〝目線〟というものはそれほど重要視しなくて良いのではないか」という疑問に、正解を出せたような気がします。

5. 最後に

現在、建設業界では女性の数を増やそうという動きが活発に見られます。

大和電設工業もその１社です。

建設現場の３Ｋ、男性が多い、体力仕事等々、女性が働きづらいのでは？という考えを持ってしまうのは仕様がないことだと思います。

このことに対して、女性が働きやすい環境を整えるのは果たして正しいのか？とずっと疑問に思っていました。確かに女性が少ないなら女性獲得や活躍に向けて対策を講じるのは、職場環境改善の第一歩として当たり前の行為だと思います。しかし、私は女性に固執する考えを取り払うべきだとも考えます。

〝女性〟が働きやすい環境を作るのではなく、〝自分たち〟が働きやすい環境を作る。変に性別にこだわらないことで、一緒に働く男性の方も働きやすい環境を作ることができ、ひいてはどんな人でも働きやすい環境を作ることができるのではないかと私は信じています。

それを、今私が仕事をしている職場から作って行きたいと思います。